

は し が き

この研究は都市の居住環境をよりよいものにしていくために、都市計画はどのような理念に従って目標を設定し、計画を立案・実施していくべきかという問題を明らかにすることを目的としている。この課題はわれわれの研究室が、ここ 10 年以上にわたって継続して採り上げてきた問題であり、今後もおそらく続けて行かなければならないであろう。

この報告書に収められている内容はその研究の一部をなすもので、昭和 49 年から 50 年にわたって実施されたものである。内容は大きく分けて次の 4 つの部分から成っている。

第一は産業革命以後、主として欧米で展開されてきたコミュニティ空間の構成に関する諸提案ならびに基準の発展経過を新しい資料を援用しつつまとめ直すことと、その影響を受けながらわが国の研究者や諸官庁がこの問題とどのように関わってきたかということを総括的に取りまとめる。

第二は上記の歴史的な流れの中で、都市計画とくに住宅地計画の基本的な構成原理として今日まで大きな影響を与えてきた「近隣住区」(neighbourhood unit)の概念を見直し、これに対する反対や批判の争点も含めて、現在の視点から再評価することである。

第三は 1960 年以降の英国のニュータウン計画において、コミュニティ空間の構成原理がどのように修正され、新しい方向を見出そうとしているかを検討している。なお事例は少ないが既成市街地の再整備に当たってのコミュニティ空間の計画についても資料を整理し検討を加える。

最後に、若干中間的な総括の性格を有するものではあるが、フィジカル・プランニングにおけるコミュニティ計画の意味・内容とその役割について考察する。

なお、補論として、主として社会学領域における論説を資料としてコミュニティの概念の問題を考察する論文をつけ加えている。

近年、わが国の都市計画は大きな曲り角にさしかかっているといわれる。その根本は大きく生活優先の思想に根ざすものであり、まさに都市計画の理念に関わるものであるといえる。これからの新しい都市計画は公害や生活障害の防除、防災対策をはじめとする都市住民の生活の安全性と保健性の確保、自然の回復、文化の育成や生活共同施設の整備など日常生活を行う場の利便性と快適性の確保を中心とする計画へ大きく転回することが要求されると思われる。

従ってわれわれは今後、ますますコミュニティ・スケールの空間構成に関する認識が深められ、住民の意志を反映した創意に満ちた優れた地区計画がわが国の各地で推進されることを期待するものである。その意味において、ここにとりあげた研究が、これからのコミュニティづくりの実践活動の一助となれば幸いであると考えている。

最後に、この研究を進める機会を与えて下さった第一住宅建設協会の御好意に対して厚く御礼を申し上げたい。